



株式会社オプトラン
**2017年12月期
決算説明会資料**

2018年2月14日

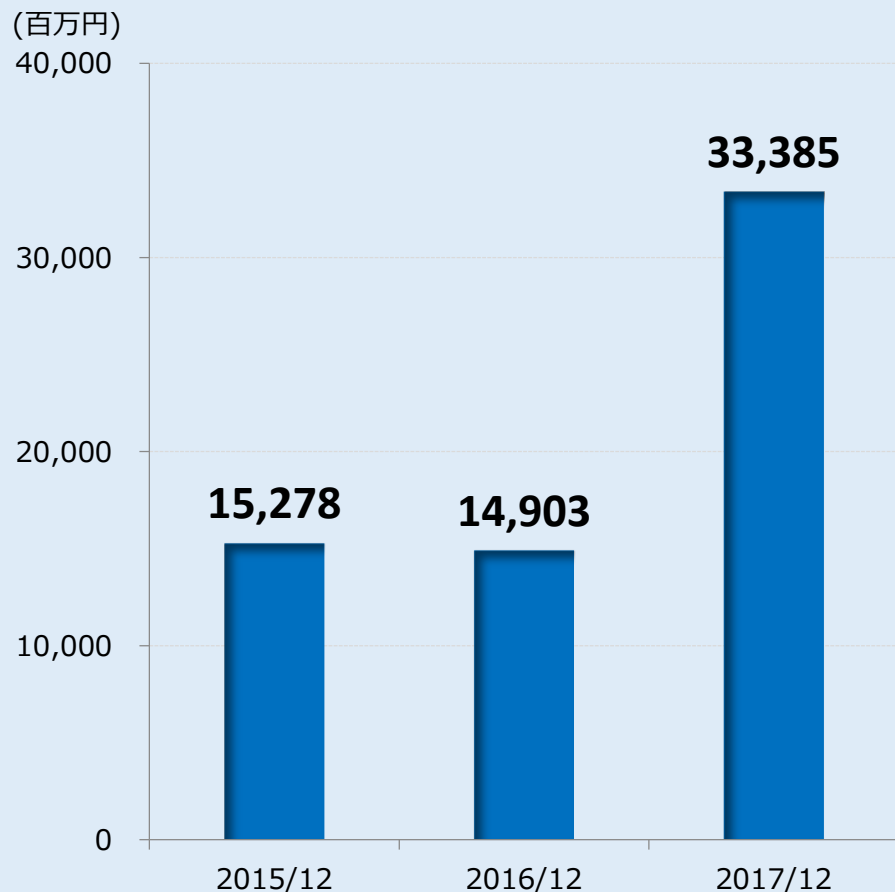
業績は大幅伸長

スマートフォン向け成膜装置が好調、LED・自動車向け成膜装置も堅調

(百万円)

	2016年12月期	2017年12月期	前期比
売上高	14,903	33,385	+124.0%
売上総利益	5,017	14,154	+182.1%
(売上高総利益率)	(33.7%)	(42.4%)	—
営業利益	2,380	7,327	+207.9%
(営業利益率)	(16.0%)	(21.9%)	—
経常利益	2,030	7,095	+249.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,466	4,815	+228.3%

売上高の推移



光学薄膜応用分野の拡大 スマートフォン・LED・自動車・IoT

【スマートフォン】

新たに生体認証・筐体バックガラスへの光学薄膜応用に対応。大口受注を中心に、売上高大幅増に貢献

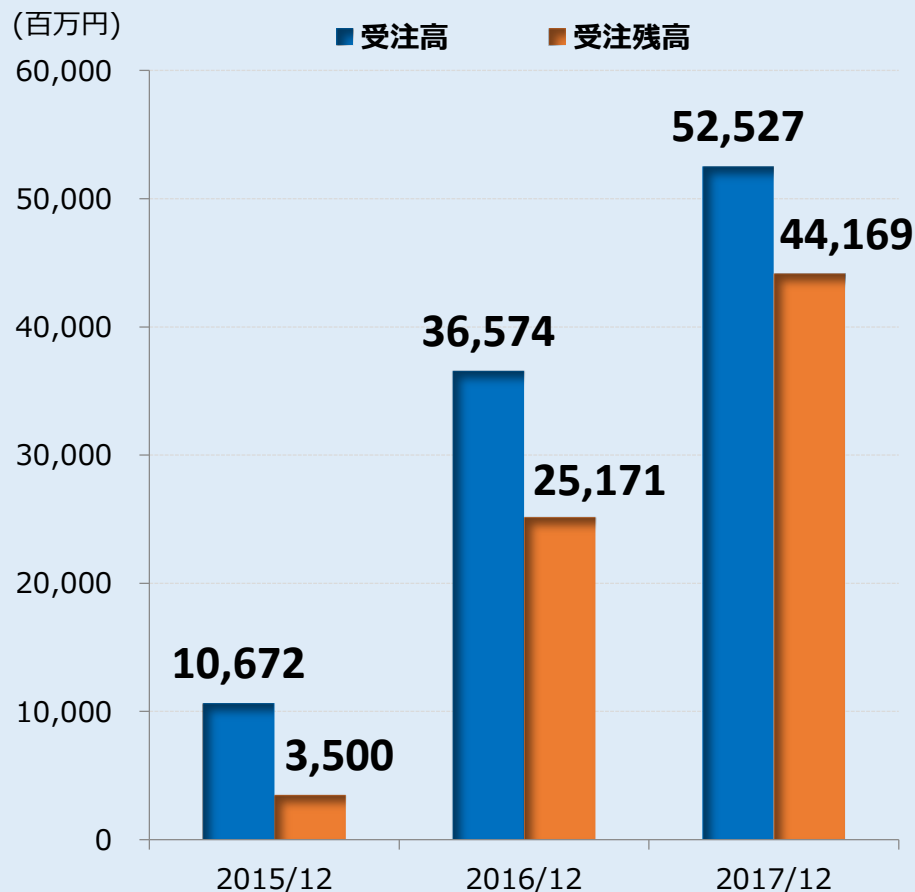
【LED】

LED照明、生体認証用LED（赤外線等を発射するLED光源）等の用途拡大に対応し、売上は堅調

【自動車】

カメラ・センサー用の売上堅調

受注高・受注残高の推移



スマートフォン・LED・自動車・IoTは引き続き堅調

【スマートフォン】

2018年新型対応を中心に受注好調。
最近時の生産調整の影響は限定的。
中国・韓国大手スマートフォンメーカーの
受注が好調

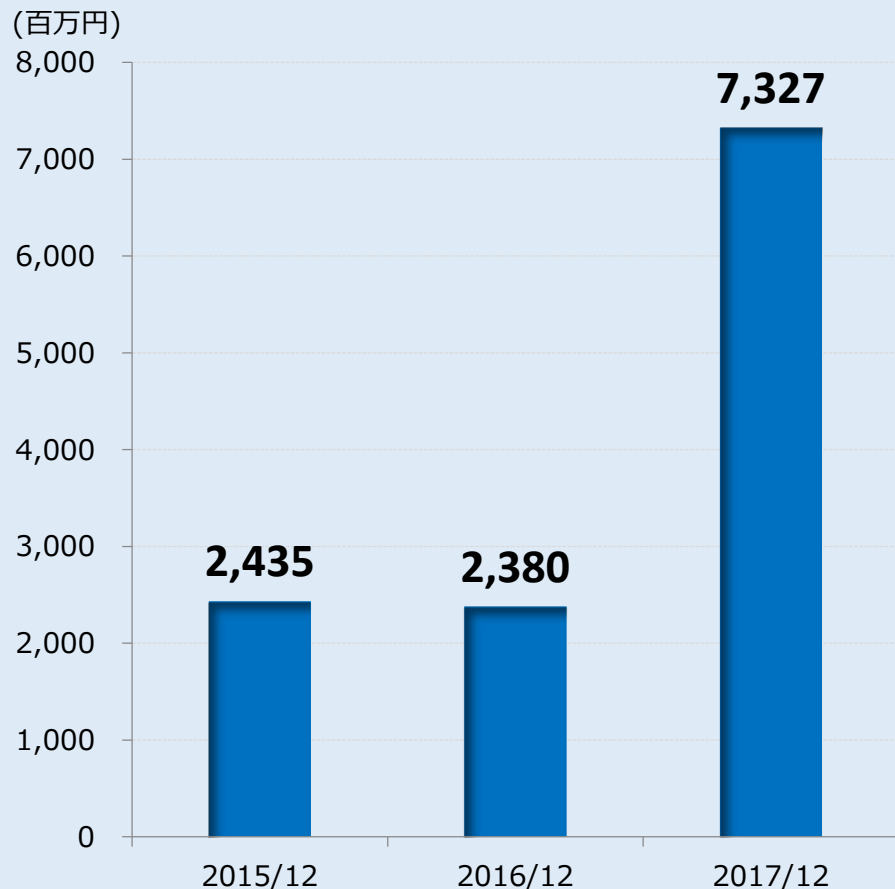
【LED】

中国・韓国等の大手LEDメーカーの受注増

【自動車】

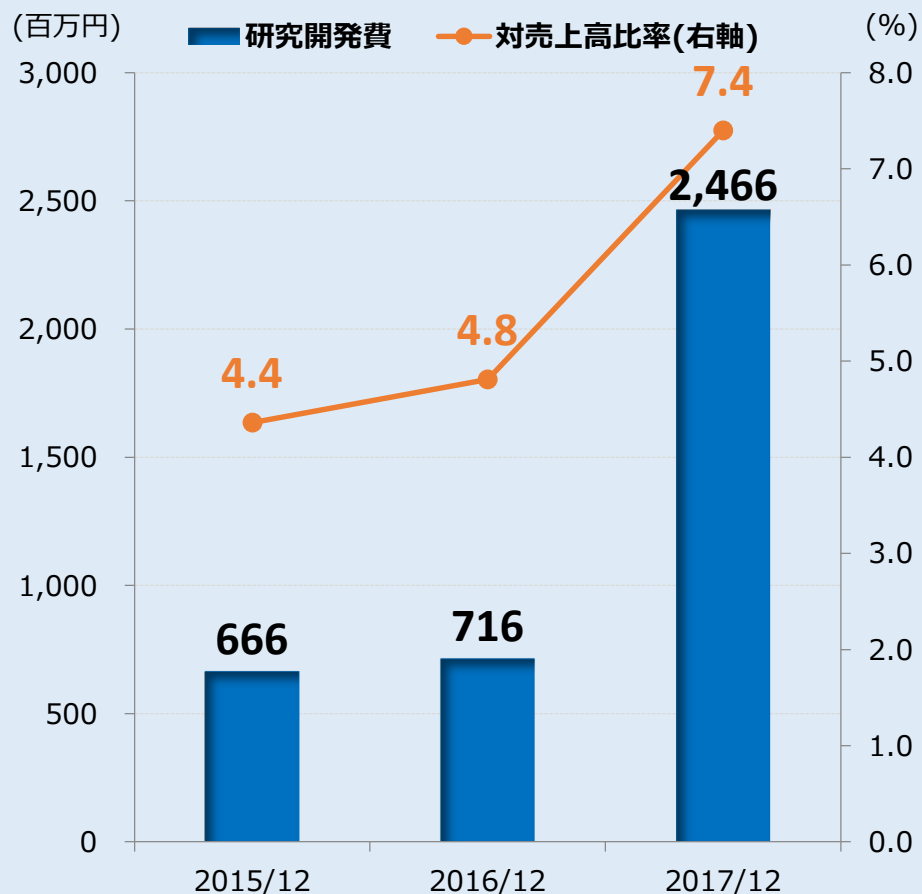
中国の大手カメラモジュールメーカーの受注増

営業利益の推移



1. **スパッタ装置大口受注分の** 売上貢献大
2. 生産台数増大による
1台あたり**固定費負担減**
3. **外注活用**による工場作業
時間短縮、出荷台数増

研究開発費の推移



1. 研究開発型企业として、経営資源を研究開発に最優先配分
2. 日本本社・中国・台湾の横断的な研究開発体制強化・人材の拡充
3. スマートフォン新機能や自動車・IoT関連等の研究開発にさらに注力

財務の状況



(百万円)

	2016年12月期末		2017年12月期末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	20,173	92.8%	52,255	92.6%	+ 32,081
現金・預金	5,357	24.7%	19,893	35.3%	+ 14,536
受取手形・売掛金	4,180	19.2%	3,380	6.0%	△800
棚卸資産	8,577	39.5%	25,107	44.5%	+ 16,530
貸倒引当金	△108	△0.5%	△181	△0.3%	+ 72
その他	2,166	10.0%	4,055	7.2%	+ 1,888
固定資産	1,556	7.2%	4,169	7.4%	+ 2,613
資産合計	21,730	100.0%	56,425	100.0%	+ 34,695
流動負債	9,580	44.1%	32,038	56.7%	+ 22,457
支払手形・買掛金	3,486	16.0%	7,303	12.9%	+ 3,817
短期有利子負債	3,432	15.8%	9,193	16.3%	+ 5,761
その他	2,662	12.3%	15,541	27.5%	+ 12,879
固定負債	1,516	7.0%	1,780	3.2%	+ 264
長期有利子負債	614	2.8%	432	0.8%	△181
その他	902	4.2%	1,347	2.4%	+ 446
負債合計	11,096	51.1%	33,818	59.9%	+ 22,722
純資産合計	10,633	48.9%	22,606	40.1%	+ 11,972
負債純資産合計	21,730	100.0%	56,425	100.0%	+ 34,695

・株式上場による資金調達
・大口受注分の販売代金回収

・出荷未検収装置の増加

・出荷未検収装置の増加による前受金の増加

・株式上場による資金調達
・利益剰余金の増加

CFの状況



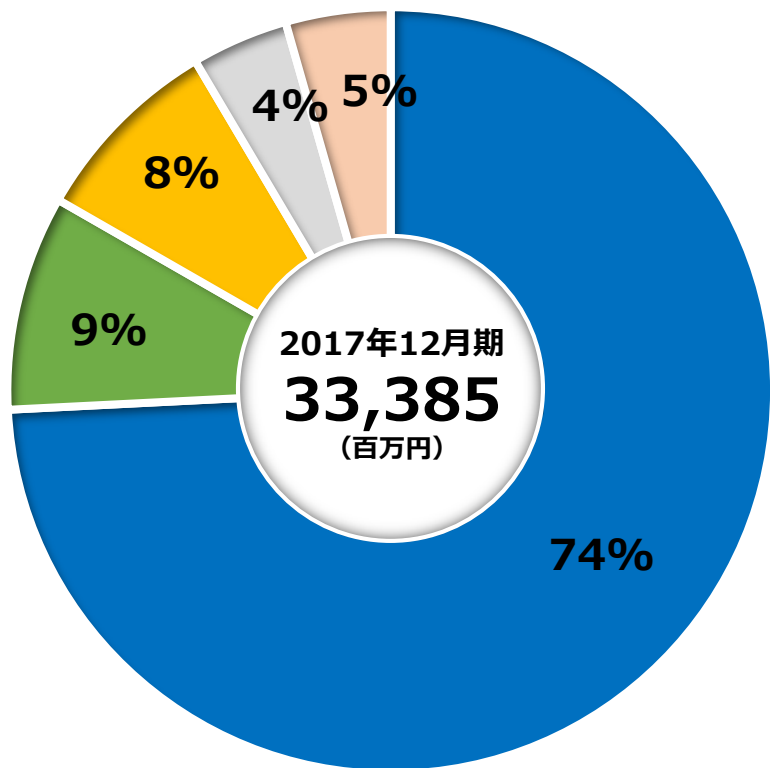
(百万円)

	2016年12月期	2017年12月期		主な要因
	金額	金額	増減額	
営業活動によるCF	△1,940	4,695	+6,635	・当期純利益増加 ・前受金増加
投資活動によるCF	928	△ 2,768	△3,697	・台湾新工場取得による支出
財務活動によるCF	1,458	12,446	+10,988	・短期借入金の純増 ・自己株式の処分による収入（上場時）
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△222	161	+384	
現金及び現金同等物の増減額	224	14,536	+14,311	
現金及び現金同等物の期首残高	5,132	5,357	+224	
現金及び現金同等物の期末残高	5,357	19,893	+14,536	

主な営業指標 ②分野別売上構成

スマートフォンの高機能化による成膜需要増加

分野別売上高



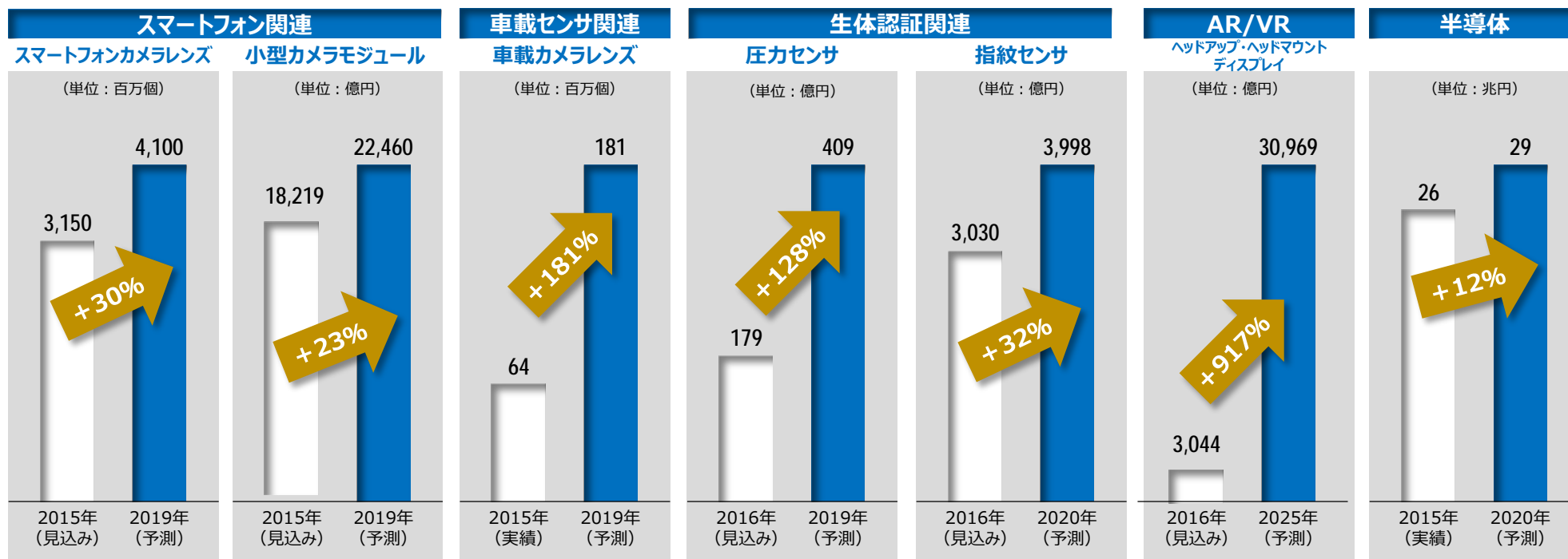
	金額 (百万円)	変化率 (前期比)
■ スマートフォン	24,771	+196.5%
■ カメラレンズ	3,034	+37.5%
■ IoT	2,734	+60.9%
■ LED	1,367	+159.3%
■ その他	1,477	△30.1%

IoTで広がる成長性 2/2



スマートフォン・車載センサ関連の他、生体認証・AR/VR・半導体光学融合が今後は有望

業界市場規模



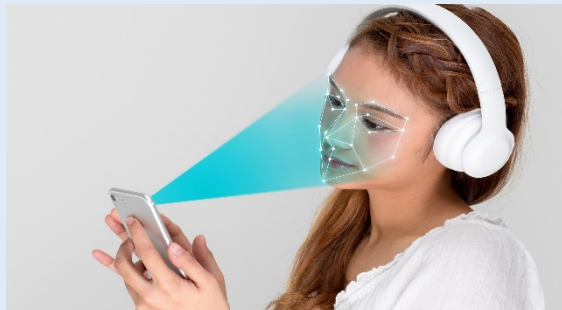
出所: 「スマートフォン関連スマートフォンカメラレンズ」は「2015年 光学/透明部品・材料市場の現状と将来展望」株式会社富士経済
 「スマートフォン関連小型カメラモジュール」は2016/2/2公表「2016 イメージング & センシング関連市場総調査プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
 「車載センサ関連車載カメラレンズ」は「2016イメージング & センシング関連市場総調査」株式会社富士キメラ総研
 「生体認証関連圧力センサ・指紋センサ」は2017/4/11公表「2017 センサーデバイス/ビッグデータ・IoT市場調査総覧 (上巻) プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
 「AR/VR」は2017/3/13公表「2017 AR/VR関連市場の将来展望プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
 「半導体」は2017/1/17公表「2017 先端/注目半導体関連市場の現状と将来展望プレスリリース」株式会社富士キメラ総研

主な成長分野 ① 生体認証、AR/VR、光通信

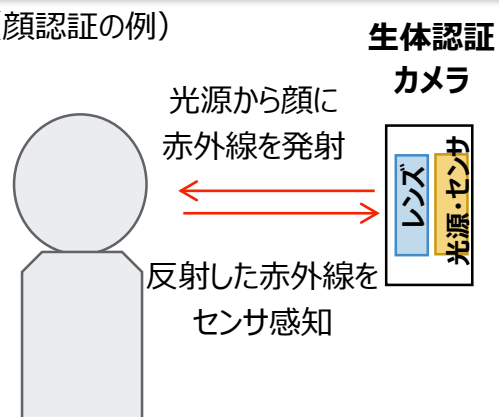


生体認証

顔や目を正確に把握する



(顔認証の例)



- 赤外線LED光源用フィルタ
- カメラ部分へバンドパスフィルタ

AR/VR

画像を鮮明に映す

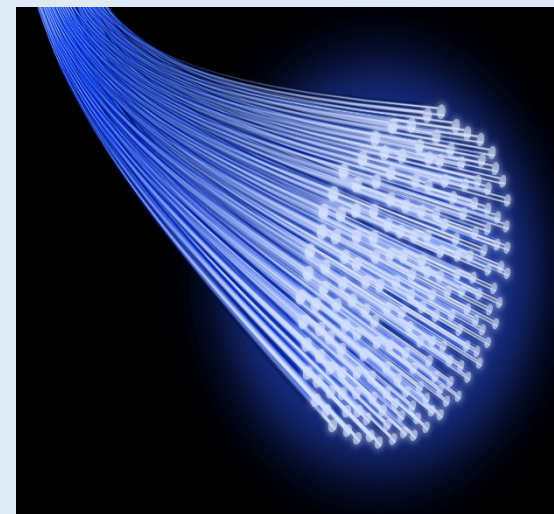
画面の傷・汚れを防ぐ



- カメラ部分へIRカットフィルタ
- 画像パネル部分へ防汚膜

光通信

光ファイバーの伝送密度を高める

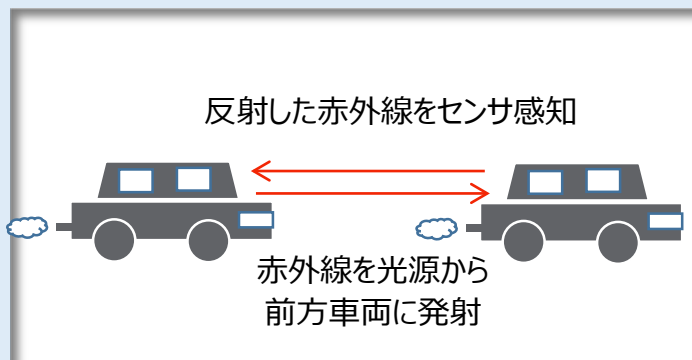


- DWDMモジュールへ
バンドパスフィルタ

主な成長分野 ②自動車

距離センサ

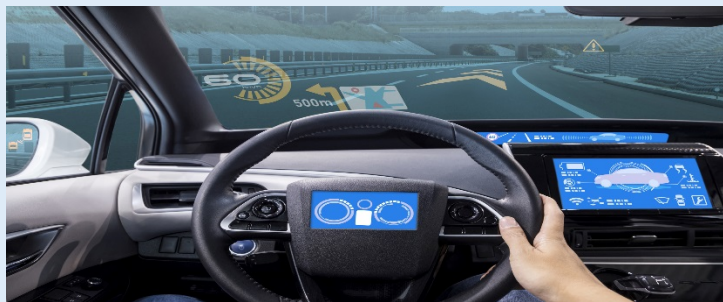
対象物までの距離を測るため



- センサ部分にLED光源とバンドパスフィルタ

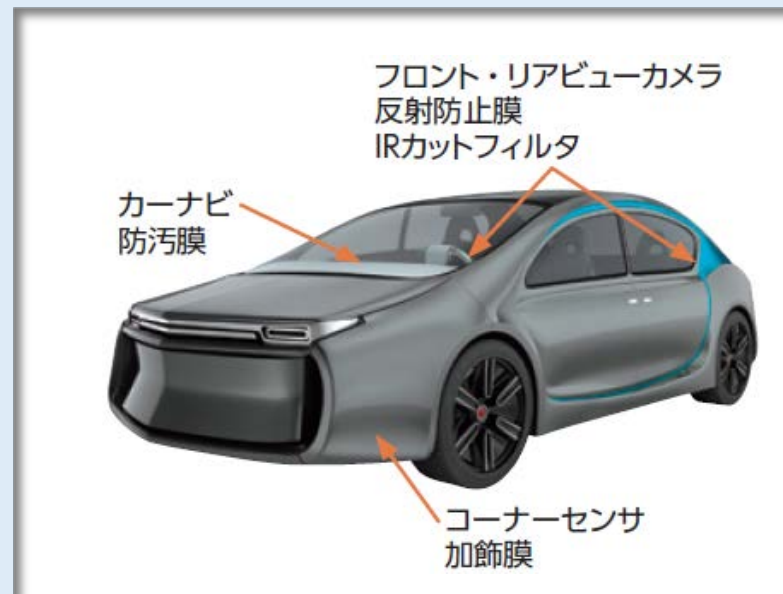
ヘッドアップディスプレイ

視界を遮ることなく、ディスプレイに画像を鮮明に映す



- ディスプレイ部分にハーフミラー膜

自動車各部品への成膜

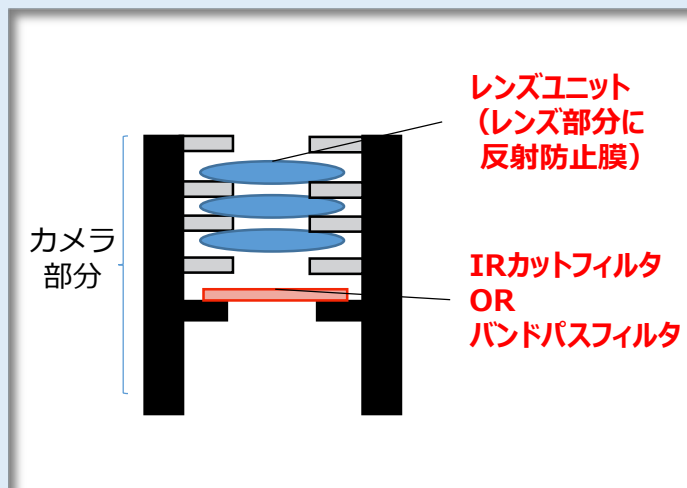


- 車載カメラレンズへの成膜
- センサ機器への成膜
- 車載ミラーへの成膜

主な成長分野 ③ 半導体光学融合

旧方式

レンズへの成膜→組立

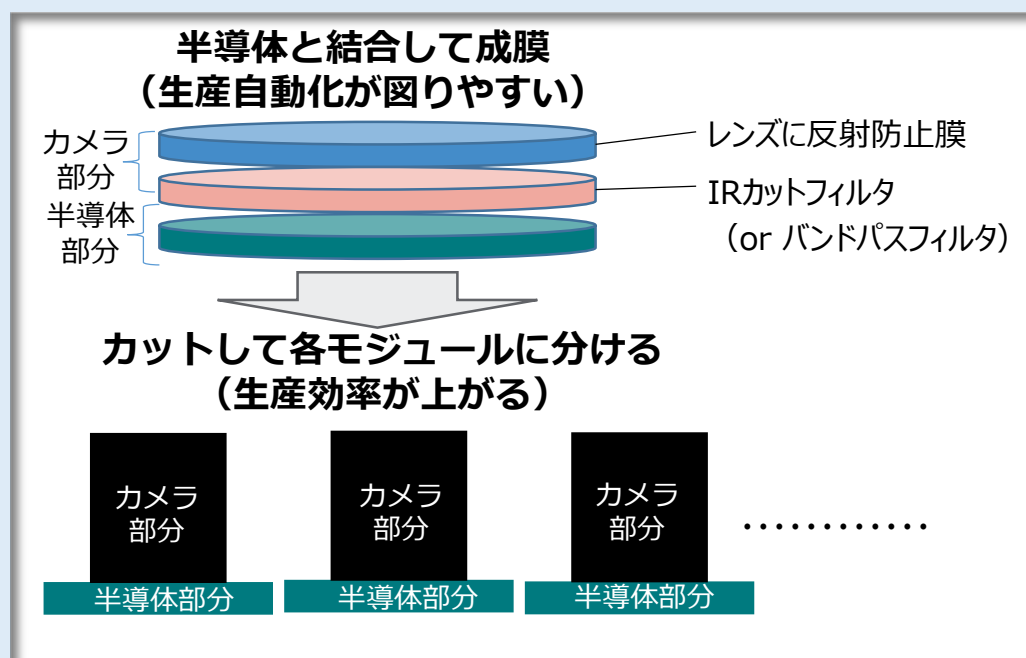


↓成膜後に半導体部分と
結合



新方式

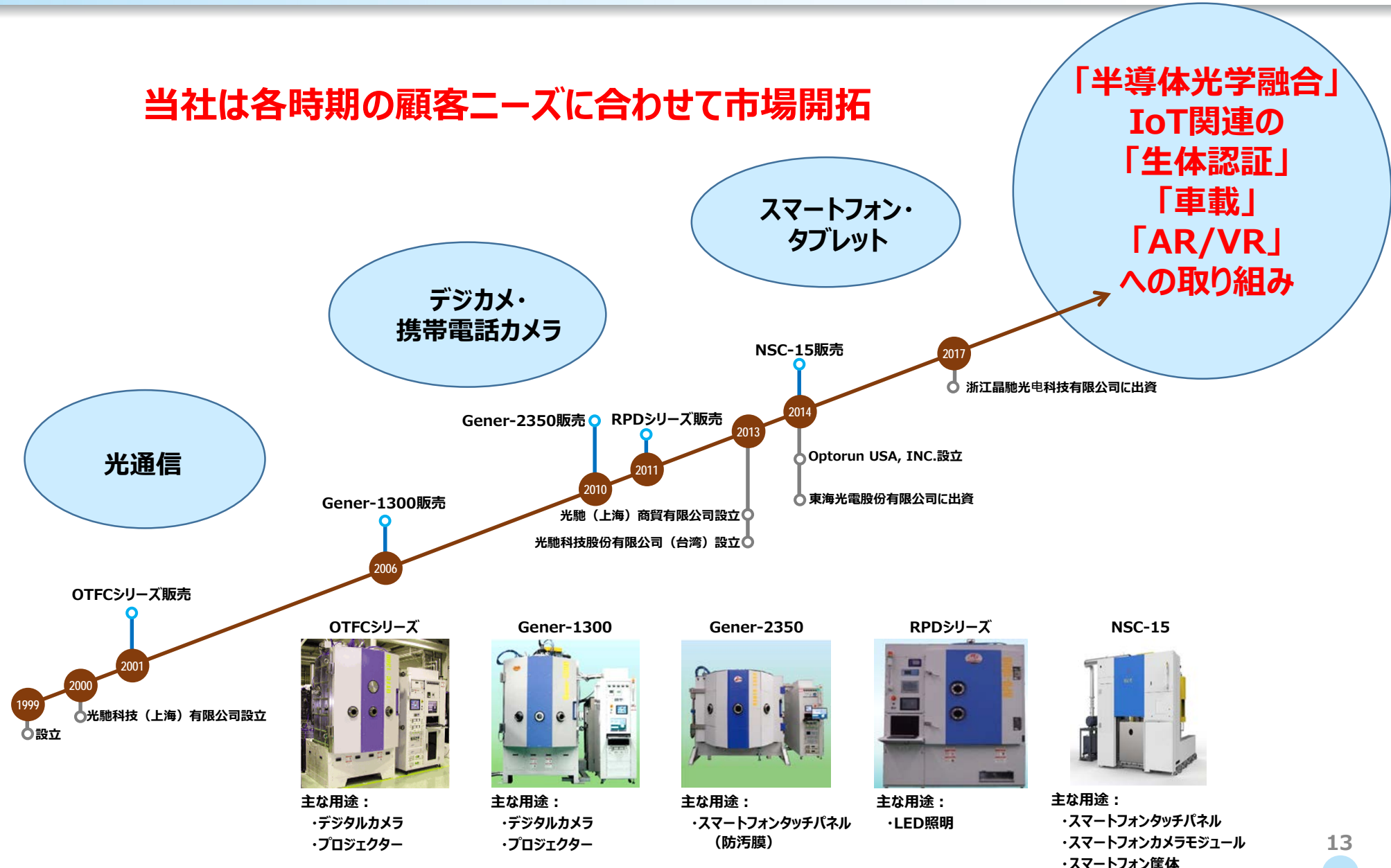
生産自動化及び半導体ウェハーへ直接成膜



- 光学薄膜装置の半導体生産ライン自動化対応
- 半導体ウェハーへ直接成膜

今後の中長期的な成長戦略

当社は各時期の顧客ニーズに合わせて市場開拓



2018年12月期 業績予想



(百万円)

	2017年12月期 実績	2018年12月期 予想	前期比
売上高	33,385	43,800	+31.2%
営業利益	7,327	8,100	+10.5%
(営業利益率)	(21.9%)	(18.5%)	—
経常利益	7,095	8,200	+15.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,815	5,700	+18.4%

- 2018年は、新型スマートフォンの高機能化が継続し、高性能な光学薄膜装置へのニーズの継続が見込まれる。年初の生産調整の影響は限定的と予想
- LED関連においても、LED照明及びスマートフォンの生体認証用LED等の成膜装置の受注が引き続き見込まれる
- 車載カメラ、接触防止のための近接センサー、フロントガラス等のヘッドアップディスプレイ等の車載関連市場も伸長するものと予想
- IoTの進展により、レンズ・光学センサーへの光学薄膜需要の広がりを想定

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2018年2月14日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 049-239-3381